

オオタバコガの交信かく乱剤による防除方法

近年、スイカや花き等でオオタバコガによる被害が増加している。
交信かく乱剤（コナガコン-プラス）を利用することにより、化学合成農薬だけに頼らずにオオタバコガの密度を低減することができます。

オオタバコガ交信かく乱剤の使用方法

【設置方法】

- ・ 交信かく乱剤：コナガコン-プラス（写真1）
- ・ 設置時期：6月上旬頃（オオタバコガが圃場に飛来する前）
- ・ 効果の持続期間：3～4か月
- ・ 設置本数：10a 当たり 100 本
- ・ 設置方法：ディスペンサー4本を一束にして着果棒等にくくりつけ、圃場に額縁状に設置する（写真2）

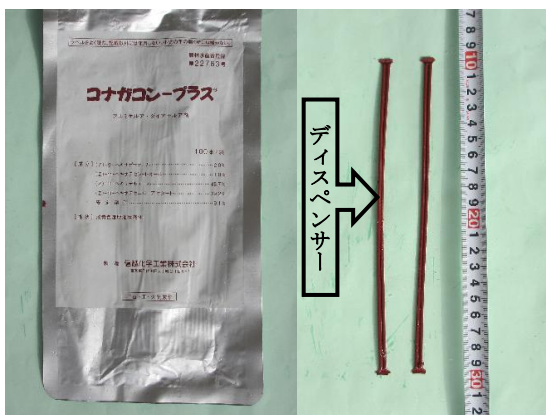


写真1 コナガコン-プラス



写真2 交信かく乱剤設置状況

【設置上の注意事項】

- ①地域での発生状況を確認するため、交信かく乱剤設置地区外にフェロモントラップを設置し、発生量や発生時期を把握する。
- ②処理面積が広い方が効果は安定するため、できるだけ地域全体で設置する（5ha以上が望ましい）。
- ③風の強い場所で使用する場合は、交信かく乱剤の有効成分が流亡することを防ぐため、防風ネットなどを設置すると効果が安定する。
- ④ディスペンサーは生分解性チューブなので、土壤に接しないように注意する。
- ⑤オオタバコガの発生が多い場合は、薬剤防除を行う。
- ⑥対象害虫の発生密度が高いと雌雄の遭遇率が高くなり、交尾阻害効果が期待できなくなる。
- ⑦対象害虫（オオタバコガ、ヨトウガ）以外の害虫の発生が見られた場合には、防除を行う。

【2014 年度に実施した実証試験の概要】

1. 概 要

520 a（スイカ：420 a、ラディッシュ：50 a、水稻：30 a、ソバ：20 a）の大規模面積で実証試験を行い、交信かく乱剤によるオオタバコガの防除効果の検証を行った。

2. 区の構成

①実証区：6月3日に交信かく乱剤を設置した。なお、各支柱の間隔は約2.4m、農道、水路を挟む場合は両側の圃場、畦畔の場合は片側の圃場のみに設置した。ディスプレイは8月29日に回収した。

②対照区：慣行防除とし、実証区より約300m南側に設置した。

3. 結 果

交信かく乱剤を設置している期間は、フェロモントラップにオオタバコガは誘殺されず、交信かく乱効果が高かった。また、収穫時の被害果率も実証区で少なかった。

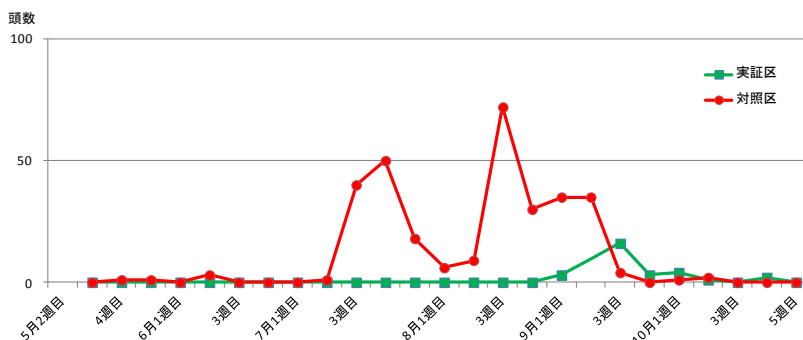


図1 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺推移

表1 耕種概要

区名	品種	定植	交配期	収穫	作型
実証区	祭ばやし777	5月4日	6月19日～23日	8月9日～15日	移動式
対照区	富士光	5月14日	6月29日～7月2日	8月16日～19日	移動式

表2 オオタバコガ防除状況

区	防 除 状 況
実証区	フルミゲル7・タ'イアメル7剤(コナ'コン'ラス) + フルベ'ンジ'アミド'剤 4,000倍(1回 6/18)
対照区	フルベ'ンジ'アミド'剤 2,000倍(2回 7/1、7/22)

表3 収穫時果実被害調査結果

区	調査個数	被害個数		被害果率 (%)
		なめり	穴あき	
実証区	240	2	0	0.8
対照区	240	5	0	2.1



写真3 スイカでの被害(なめり)状況



写真4 ダリアでの被害状況

問い合わせ先

山形県病害虫防除所

執筆者：土門 清

Tel : 023-644-4241

e-mail : ybyogaichu@pref.yamagata.jp